

満蒙開拓、背中あわせの被害と加害

清水 竹人

1. 満蒙開拓とはなんだったのか

その目的

- 疲弊した農村の救済
- 皇土朝鮮の防衛
- 来たる大戦に備えた食糧確保

そのスローガン

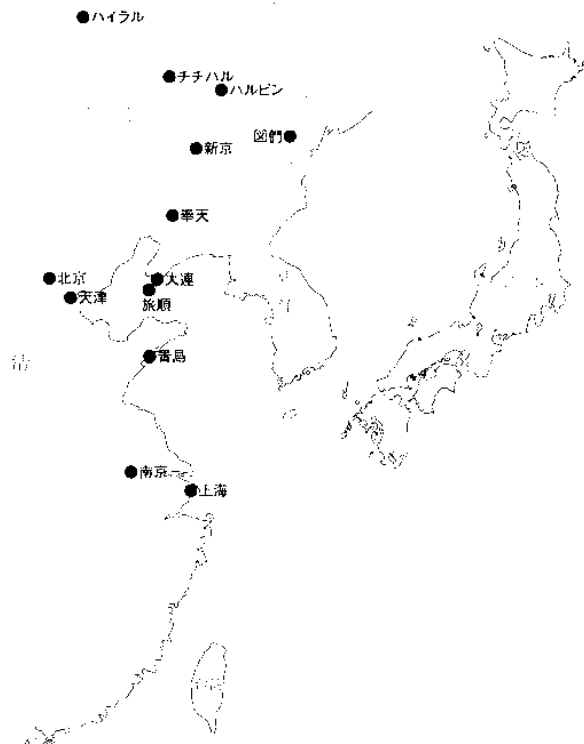
- 五族協和（日・朝・満・蒙・漢の五族）
- 王道樂土（仁徳による統治）

その宣伝

- 広大な沃土が待っている
- 20町歩（約6万坪）の地主になれる
- 大日向村が分村のモデル村に
 - 小説（39年、和田傳）
 - 新劇（39年、前進座）
 - 映画（40年、豊田四郎）

その実態

- 補助金で分村を勧誘
- 日本人による満州国支配
- 現地住民の土地を収奪
- 戦局悪化で関東軍は南方へ
- 成人男性を根こそぎ招集



2. 満蒙開拓を推進した主な人物と組織

いしわらかんじ

石原莞爾（1889～1949年）…関東軍参謀、満州事変の首謀者。「世界最終戦論」など軍事思想家で、1927年の「現在及び将来に於ける日本の国防」に満蒙領有構想が見られる。

とうみやかねお

東宮鉄男（1892～1937年）…関東軍将校、張作霖爆殺事件（1928年6月4日）の実行者。満州移民を推進した中心人物で、満蒙開拓移民の父とよばれる。

加藤完治（1884～1967年）…教育者、農本主義者。茨城県に国民高等学校を設立し、これに隣接して満蒙開拓青少年義勇軍訓練所を開設。

しろし

那須 皓（1888～1984年）…農業経済学者。東京帝大教授。

橋本伝左衛門（1887～1977年）…農業経営学者。京都帝大教授。

杉野忠夫（1901～65年）…満洲報国農場の発案者。後に東京農大拓殖学科長。

石黒忠篤（1884～1960年）…農林官僚、後に農林大臣。

拓務省…1929年創設、42年に大東亜省に編入。
農林省…1943年、商工省の一部を引き継ぎ、農商省となる。
文部省
満洲拓殖公社、南満洲鐵道、都道府県庁、市町村役場
学校、教育会

3. 満洲に渡った開拓民

農業移民（約27万人）
開拓団数（約800）

満蒙開拓青少年義勇軍（約8万6千人）
試験移民（武装移民、1932年～）…農業経験のある在郷軍人。
分村・分郷移民（1937年～）…農村からの集団移民。
満蒙開拓青少年義勇軍（1938年～）…15～18歳の青少年。
自由移民…国や県、市町村募集以外。
勤労奉仕隊…農閑期の春から秋の数ヶ月に派遣。
帰農開拓団…農業以外の職種から満洲に移民し、農業に転業。

土地収用に抵抗する地元農民を強制的に囲い込み、彼らの農地を「無人地帯」に指定、約2000万ヘクタールを安価に買い上げ、入植地とした。

満洲国は日本の外地（本土の延長）ではなく、日本政府が承認した外国であったが、移民たちは日本国籍のまま日本人社会の中で生活していたため、日本人という意識が強く、現地住民と交流する事はあっても同化はしなかった。

満蒙開拓青少年義勇軍は「兵士予備軍」という位置づけで、農業実習とともに軍事教練を課され、軍事的観点から、主にソ連国境に近い満州北部に入植させられた。42年以降、戦局の悪化に伴う兵力動員で成人男性の入植が困難となり、青少年義勇軍が移民の主軸となった。

4. 満洲帝国崩壊時の軍と政府の動き

1944年 9月18日 大本営、関東軍主力を通化省に移動
ソ連軍侵攻想定した作戦命令
1945年 5月30日 満鮮方面対ソ作戦計画要領（内線作戦）
大連—新京—図們を最終防衛線 →満洲の4分の3を放棄
7月 1日 参謀本部第二部、ソ連軍の武力発動を8月頃と予想分析
10日 在満邦人18歳以上45歳以下の男性を「根こそぎ招集」
8月 2日 関東軍報道部長がラジオ放送「関東軍は盤石。国境開拓団諸君は
安んじて生業に励むがよろしい」
9日 大本営「戦後将来の帝国の復興再建を考慮し、なるべく多くの日本人を大陸の一角に残置」

- 10日 大本営、関東軍に「満洲全土放棄も可」
- 14日 外務省「三カ国宣言受諾ニ関スル在外現地機関ニ対スル訓令」
居留民の現地土着方針
- 26日 大本営・朝枝繁春参謀、在満日本人の「現地土着方針」報告
- 29日 大本営総参謀長、朝枝報告に同意
- 30日 駐満大使、在満日本人の内地送還を政府に電報で懇願
- 31日 日本政府、終戦処理会議で改めて「現地土着方針」を指示
- 1946年 3月16日 GHQ「引揚に関する基本指令」
軍人引揚を優先

5. 満蒙開拓がもたらしたもの

現地住民の犠牲…多数が土地を追われ、生活を奪われ、亡くなった

- 土龍山事件(依蘭事変)…1934年3月9日、土地収用に対して起きた現地住民による武装蜂起。5月20日、関東軍が鎮圧。

開拓民の犠牲(約8万人)…栄養失調、発疹チフス等の伝染病、ソ連軍による虐殺、現地民による襲撃、沖縄戦より多い集団死

- 麻山事件…1945年8月12日、ソ連軍と現地民に追い詰められた^{はたほ}哈達河開拓団の421人が自決。
- 葛根廟事件…8月14日、興安街でソ連軍戦車部隊が1000人以上を虐殺。
- 高橋事件…8月17日、暴民に襲われた高橋開拓団の約300人が呼蘭河に投身自殺。
- 鳳凰事件…8月24日、ソ連軍と暴民に追いつめられた^{ふらん}鳳凰開拓団216人が自決し、全滅。
- 佐渡事件…8月27日、佐渡開拓団跡地にたどり着いた避難民が、ソ連軍の偵察機を焼き、トラックに対する射撃の報復として1400人以上が殺害される。
- 亜州事件…8月27日、暴民に襲われた亜州白山郷開拓団の365人が自決。
- 敦化事件…8月27日、ソ連軍によって集団レイプされ続けていた日満パルプ^{とんか}敦化工場の女性社員や家族30余人が青酸カリで集団自決。
- 瑞穂事件…9月17日、瑞穂開拓団の495人が服毒自殺。
- 黒川開拓団…西隣の来民開拓団270人が集団自決し、保護と引き替えにソ連軍将校に未婚女性による「性接待」を提供。

シベリア抑留(約57万5千人、うち約5万8千人が死亡)

残留婦人、残留孤児

永住帰国者、2万余人…いまだに祖国に帰れぬ残留者たち、終わらぬ肉親さがし帰還者たちに対する「満州帰り」「満州乞食」という侮蔑 → 再び国内の開拓地へ拒まれる遺骨収集、慰霊

6. 拓魂公苑（多摩市）は慰霊の場なのか

1963年、社団法人全国拓友協会による開設

碑に刻まれた「拓魂」は加藤完治による揮毫

以後、毎年4月第2日曜に「拓魂祭」を開催

2001年、東京都に移管

満蒙開拓殉難者之碑建設の由来
この碑は 満蒙の曠野に無惨に散った八万の開拓者と その人々を守りつゝ自らも逝った関係者多数の御霊が合祀してあります
昭和七年（一九三二年）はじめられた 満洲の開拓事業は 満蒙の天地に 世界に比類なき民族協和の平和村建設と 祖国の防衛という高い日本民族の理想を実現するために 重大国策として 時の政府により行われたものであります
凍土をおこし 黒土を耕し 三十万の開拓農民は 日夜 祖国の運命を想いながら黙々と開拓の鋤を振りました 然し その理想の達せられんとした昭和二十年の夏 思わざる祖国の敗戦により 血と汗の建設は一瞬にして崩れ去り 八万余の拓土と関係者は 満蒙の夏草の中に露と消えていきました
そして そこには未だ一輪の花も供えられ たことはないのです
こゝに同志相図り 水清きこの多摩川の丘に一碑を建て、祖国と民族のために 雄々しく不屈の開拓を闘い抜き そして散っていった亡きこれらの人々の御霊をお祀りすると共に 再びかかる悲しみのおこることなき世界の平和の実現を心からお祈りせんとするものです
昭和三十八年八月
建設委員長 安井 謙

忠霊塔—戦没者祭祀の起源

日露戦争の戦没兵（約8万）のうち、郷里に送還できなかった遺骨を遼陽・旅順・安東・奉天・大連に集約し、忠霊塔とした。

7. まとめ—責任は何処に？

- 開拓民は、誤った国策の被害者だった。
- 現地住民にとって、開拓民は土地を奪い、生活を破壊した加害者でもあった。

↓

このような政府を選んだのはだれか？

（軍をおそれ、反対者を攻撃した国民）

“if”を論じてても歴史は変わらないが、
歴史から学ぶためには、比較対象としての“if”を考えることが不可欠。

【関連年表】

- 1931年 9月17日 柳条湖事件
1932年 3月 1日 満洲国建国宣言
9日 清朝廢帝溥儀、満洲国執政に就任
5月15日 5・15事件
9月13日 関東軍「満洲における移民に関する要綱案」策定
15日 日満議定書（日本政府、満洲国承認）
10月 3日 第一次武装移民出発（翌年2月、永豊鎮制圧）
1933年 2月24日 日本、国際連盟脱退
1934年 3月 1日 溥儀、満洲国皇帝に即位
1936年 2月26日 2・26事件（高橋是清暗殺）
5月11日 関東軍「満洲農業移民百万戸計画」決定
8月25日 広田内閣、満洲移民を国策化
1937年 7月 7日 盧溝橋事件
8月 3日 満洲拓殖公社設立
11月 3日 加藤完治ら「満蒙開拓青少年義勇軍編成に関する建白書」
1938年 7月 8日 長野県佐久郡大日向村の分村移民開始
1939年 5月11日 ノモンハン事件（9月16日に停戦）
12月22日 満洲開拓政策基本要綱決定（呼称が「移民」から「開拓民」に）
1940年 9月27日 日独伊三国同盟
10月12日 大政翼賛会発足
1941年 4月13日 日ソ中立条約
7月 7日 関東軍、対ソ開戦を視野に特殊演習開始
12月 8日 真珠湾攻撃
1942年 6月 5日 ミッドウェー海戦
1943年 2月 1日 ガダルカナル撤退
11月22日 カイロ会談（～26日、米・英・中）
1944年 7月 9日 サイパン陥落
7月29日 大連、鞍山にB29来襲
10月24日 レイテ沖海戦
11月24日 B29、東京初空襲
1945年 1月16日 京都初空襲
2月 4日 ヤルタ会談（～11日、米・英・ソ）
14日 近衛上奏文（結果は一撃講和論に）
3月10日 東京大空襲（死者10万人、焼失家屋26万戸）
4月 1日 米軍、沖縄本島上陸
5日 ソ連、日ソ中立条約不延長を通達
7月17日 ポツダム会談（～8月2日、英・米・ソ）
8月 8日 ソ連、日ソ中立条約を破棄、日本に宣戦布告
14日 ポツダム宣言受諾
15日 玉音放送
18日 満洲国皇帝溥儀が退位（満洲帝国消滅）
19日 関東軍とソ連軍、停戦合意（ジャリコーウエ村）
22日 シベリア抑留始まる
9月 2日 日本、降伏文書に調印
1946年 5月 7日 葫蘆島より引き揚げ開始（約105万人）
1972年 9月29日 日中国交正常化（中国残留者の実態が明らかに）

常磐松開拓団

- 4月10日 一次隊出発
5月25日 山手大空襲
6月26日 三次隊出発
8月 3日 敦賀出港
8月 8日 牡丹江到着

<参考文献>

- 貴志俊彦、松重充浩、松村史紀(編)、『二〇世紀満洲歴史事典』、吉川弘文館、2012年、ISBN 978-4-642-01469-4、14,000円。
- 二松啓紀、『移民たちの「満州」 満蒙開拓団の虚と実』、平凡社新書、2015年、ISBN 978-4-582-85782-5、840円。
- 澤地久枝、『14歳 満州開拓村からの帰還』、集英社新書、2015年、ISBN 978-4-08-720789-7、700円。
- 加藤聖文、『満蒙開拓団 虚妄の「日満一体」』、岩波現代全書、2017年、ISBN 978-4-00-029200-9、2,200円。
- 小林弘忠、『満州開拓団の真実 なぜ、悲劇が起きてしまったのか』、七つ森書館、2017年、ISBN 978-4-8228-1780-0、2,000円。
- 中村雪子、『麻山事件 満洲の野に婦女子四百余名自決す』、草思社文庫、2011年、ISBN 978-4-7942-1869-8、950円。
- 足達太郎、小塩海平、藤原辰史、『農学と戦争 知られざる満洲報国農場』、岩波書店、2019年、ISBN 978-4-00-001826-5、2,500円。
- 小林信介、『人々はなぜ満州へ渡ったのか 長野県の社会運動と移民』、世界思想社、2015年、ISBN 978-4-7907-1657-0、2,500円。
- 東京の満蒙開拓団を知る会、『東京満蒙開拓団』、ゆまに書房、2012年、ISBN 978-4-8433-3940-4、1,800円。
- 渡辺雅子、『満洲分村移民の昭和史—残留者なしの引揚げ 大分県大鶴開拓団』、彩流社、2011年、ISBN 978-4-7791-1598-1、2,000円。
- 細谷亨、『日本帝国の膨張・崩壊と満蒙開拓団』、有志社、2019年、ISBN 978-4-908672-27-9、6,000円。
- 高橋健男、『新聞記事から読み解く教師と満蒙開拓』、新潟日報事業者、2019年、ISBN 978-4-86132-712-4、2,300円。
- 中繁彦、『沈まぬ夕陽 満蒙開拓の今を生きる中島田鶴』、信濃毎日新聞社、2013年、ISBN 978-4-7840-7215-6、1,400円。
- 伊藤純郎、『満州分村の神話 大日向村は、こう描かれた』、信濃毎日新聞社、2018年、ISBN 978-4-7840-7331-3、1,300円。
- 大日向悦夫、『満洲分村移民を拒否した村長 佐々木忠綱の生き方と信念』、信濃毎日新聞社、2018年、ISBN 978-4-7840-7333-7、1,200円。
- 飯田市歴史研究所(編)、『満州移民 飯田下伊那からのメッセージ』、現代資料出版、2007年、ISBN 978-4-87785-202-3、1,200円。
- 満蒙開拓平和記念館、『満州開拓民入植図』、2017年、500円。
- 田島奈都子、『プロパガンダ・ポスターにみる日本の戦争 135枚が映し出す真実』、勉誠出版、2016年、ISBN 978-4-585-27031-7、2,800円。

<映像資料>

- 山田火砂子(監督)、映画『山本慈昭 望郷の鐘 満蒙開拓団の落日』、現代ぷろだくしょん、2014年、104分。
- 出崎哲(監督)、アニメ『蒼い記憶 満蒙開拓と少年たち』、満蒙開拓・映画製作委員会、1993年、90分。配信→科学映像館 <http://www.kagakueizo.org/create/other/5248/>
- 松井稔(監督)、ドキュメンタリー『葫蘆島大遣返 日本人難民105万引き揚げの記録』、葫蘆島を記憶する会、1997年、102分。
- 羽田澄子(監督)、ドキュメンタリー『嗚呼、満蒙開拓団』、自由工房、2004年、120分。
- 田上龍一(監督)、ドキュメンタリー『葛根廟事件の証言』、2019年、74分。
- 満蒙開拓平和記念館、『満蒙開拓の真実 国策移民の実像と悲劇』、2011年、20分。貸し出しあり→<https://www.manmoukinenkan.com/>。